

## 平成 15 年度（平成 16 年 3 月期）決算に関する主な質疑応答

本日発表致しました平成 15 年度（平成 16 年 3 月期）の業績に関しまして、皆様からお問い合わせの多いご質問への回答を、以下の通り掲載致します。

今後も記者会見における質疑応答や、投資家説明会における質疑応答等、順次掲載していく予定です。

### 1 . 平成 15 年度 SMBC 収益関連

Q . 業務純益の 14 年度比増減要因について説明して下さい。

A . 業務純益は 10,001 億円と 14 年度比 1,135 億円の減益となりました。

14 年度に内外金利低下を捉えたオペレーションにより高水準となっていた市場営業部門収益が反落したことから、業務粗利益が 14 年度比 1,765 億円の減益となった一方、経費において、人員・賞与の更なる削減、並びに、14 年度に完了した店舗統合やシステム統合の効果実現等から 14 年度比 630 億円改善したことが主因です。

Q . 貸金の増減状況及びその要因について教えて下さい。

A . 16 年 3 月末の貸金は、15 年 3 月末比 6 兆 4,722 億円の減少となりました。

このうち、国内においては、問題先宛貸出の削減に積極的に取組んだことや、交付税特別会計等の国庫向け貸出が減少したことから、15 年 3 月末比約 5 兆 8,000 億円の減少となりました。また、海外においては、円高影響等から 15 年 3 月末比約 6,000 億円の減少となりました。

尚、中堅中小企業向けのリスクテイク貸金や住宅ローン等に積極的に取組んだ結果、国内マーケティング部門の貸金残高は、15 年度下期にはプラスに転じております。

### 2 . SMBC アセットクオリティ関連

Q . 金融再生法開示債権残高について 16 年 3 月末の計画である 3 兆 9,000 億円の計画を 1 兆円以上超過達成していますが、その要因について教えて下さい。

A . 当行は 15 年度・16 年度を「集中処理期間」と位置づけ、不良債権削減に注力してまいりました。その結果、16 年 3 月末の開示債権残高は 2 兆 8,112 億円と 15 年 3 月末比 2 兆 4,501 億円の大幅な削減となり、総与信に対する不良債権比率も 15 年 3 月末比 3.4% 減少し 5.0% となりました。

これは、経済情勢好転の兆しの一部に見えてきた環境下、債権売却等のオフバランス化を引き続き進めたこと、要管理先等では企業の再生努力に従来以上に積極的に関与してきたこと、また予てより強化してきた劣化防止への取組みが効果を上げてきたことが主な要因です。

尚、内訳としては、危険債権が 9,268 億円、要管理債権が 1 兆 3,600 億円減少しております。

Q . クレジットコストは 8,034 億円と、15 年 11 月の決算発表時の予想である 7,000 億円を約 1,000 億円上回っていますが、その要因や内訳を教えてください。

A . 不良債権問題の抜本的解決に向け、16 年度末迄の不良債権比率半減という目標を前倒しで達成するべく、15 年度下期においても処理を一層加速させてきたことから、相応の処理コストが発生しました。また、破綻懸念先および要管理先に対する引当を強化したことも一因となっております。

尚、クレジットコストの内訳は、オフバランス化コストが約 2,500 億円、劣化コスト等が約 5,500 億円となっております。

Q . 要管理先・要注意先への引当率はどのような状況ですか？

A . 要管理先全体に対する引当率は D C F 適用先を含めてアンカバー（担保・保証等により回収可能な部分の金額を除いた残額）に対し 39.0% と、15 年度末比で + 5.3% 上昇し十分な水準となっております。尚、その他要注意先債権に対する引当率は、アンカバー対比 10.8% と前年度末比で 2.0% 低下しております。

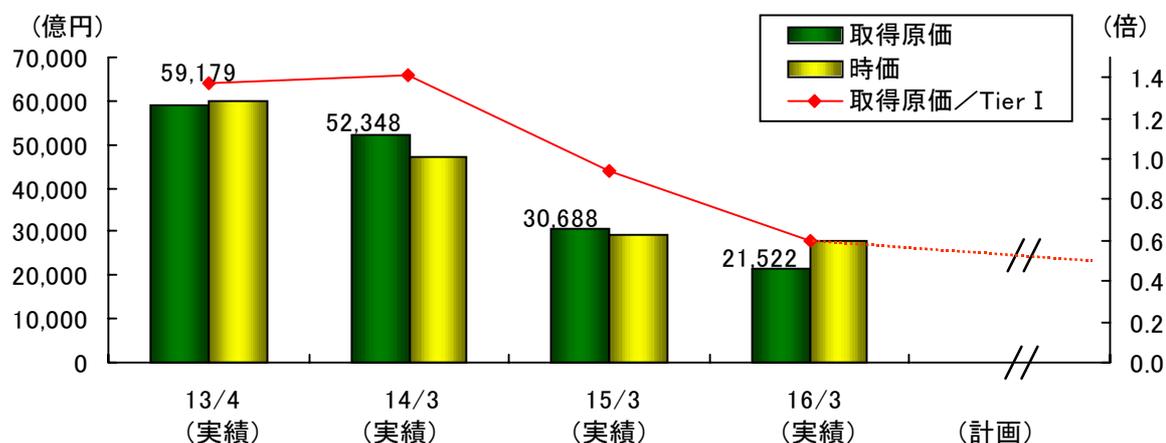
### 3 . SMBC バランスシート関連

Q . 株式持合解消は進んでいるのですか？また、今後の方針はどのようなものですか？

A . 保有株式につきましては、15 年度上期中に約 5,600 億円を売却、下期も簿価圧縮を進めた結果、通期で合計 9,300 億円売却いたしました。

今後も引き続き株式市場への影響を極力排除しつつ、株価変動リスクの一層の削減に向け、中期的には保有株式残高を T i e r 資本の半分以下に収めることを目標に圧縮を進めてまいります。

#### 《保有株式の圧縮》



Q . 繰延税金資産の計上額はいくらですか？また、評価性引当金についても教えてください。

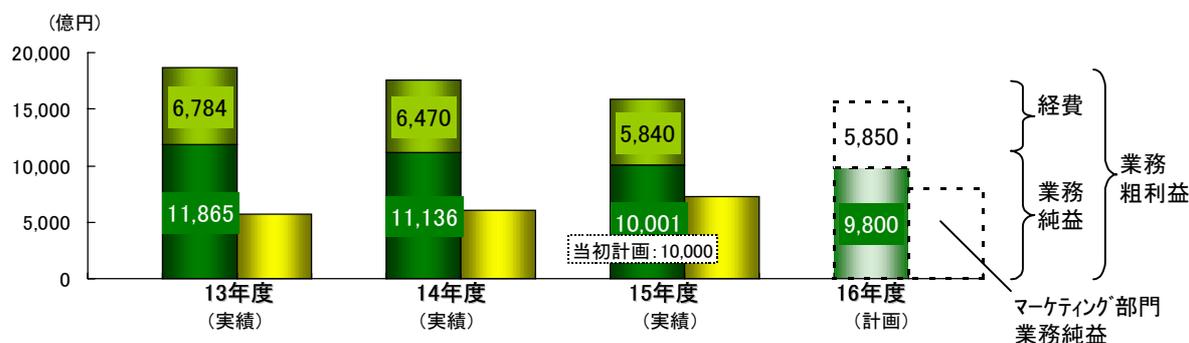
A . 平成 16 年 3 月末における繰延税金資産の計上額は、その他有価証券が含み益に転じた影響等で前年度末比 2,241 億円減少し、1 兆 5,905 億円となりました。評価性引当金については、15 年度において利益を計上したことにより一時差異が解消したことから前年度末比 975 億円減少し、3,573 億円となりました。

#### 4 . 平成 16 年度（平成 17 年 3 月期）SMBC 業績予想関連

Q . 平成 16 年度の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）について教えてください。

A . 平成 16 年度は、内外の長期金利に上昇懸念が高まる中、市場営業部門において約 1,000 億円の減益を見込む一方、マーケティング部門収益の積上げによりこれを補い、業務粗利益全体では 15 年度比約 200 億円の減益を見込んでおります。経費については、引き続き合理化等による削減を進める一方、収益増強に向け中堅中小企業向け貸出や住宅ローン等の戦略ビジネスに積極的に資源を投入、トータルでは 15 年度とほぼ同水準を見込んでいます。この結果、16 年度の業務純益は 9,800 億円と 15 年度比約 200 億円の減益を見込んでおります。

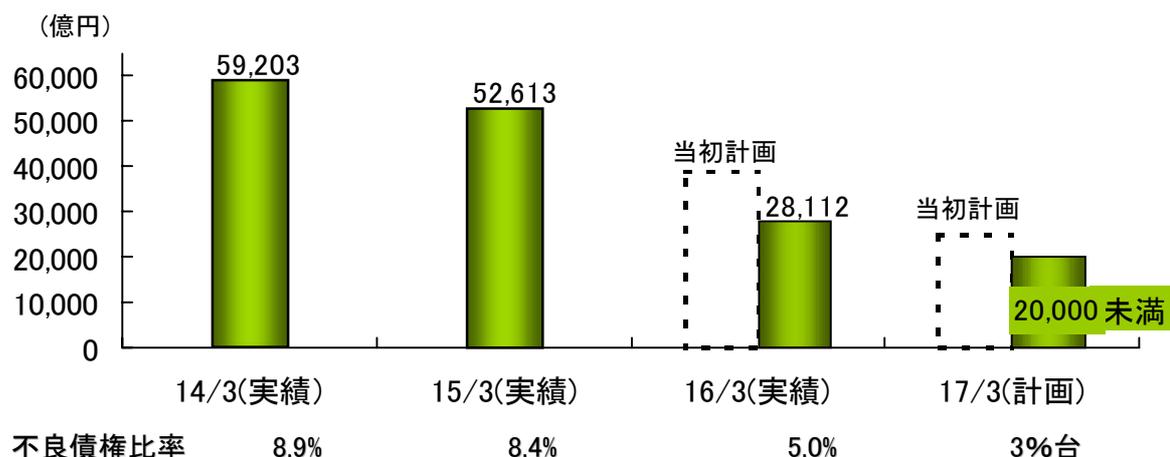
#### 《業務純益の推移》



Q . 今後の不良債権削減計画について教えてください。

A . 16 年度は、不良債権問題の抜本的解決に向け、オフバランス化を引き続き推進するとともに、企業再生や劣化防止等にも積極的に注力することによって、17 年 3 月末には不良債権残高は 2 兆円を切り、与信全体に対する比率は 3% 台となる見通しです。

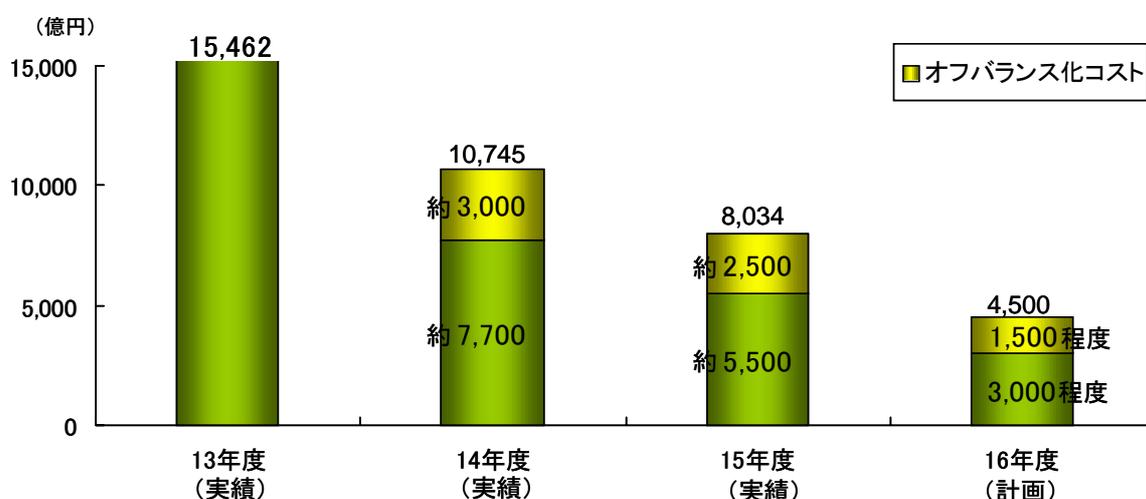
《開示債権残高の推移》



Q . クレジットコストは、どの程度を見込んでいますか？

A . クレジットコストは、4,500 億円を見込んでいます。このうち、オフバランス化に伴うコストとして 1,500 億円程度を、劣化コスト等として 3,000 億円程度を見込んでおります。

《クレジットコスト推移》



5 . SMFG 関連

Q . 16 年度の S M F G 連結の業績予想を教えてください。

A . S M F G 連結の 16 年度業績予想は、経常利益で 6,500 億円、当期純利益で 3,300 億円を見込んでいます。尚、S M F G 単体の予想としては、経常利益 2,550 億円、当期純利益 2,550 億円を見込んでいます。

(以下、ご参考：「平成 15 年度決算説明資料」23 ページ)

2.2.平成16年度業績予想

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

【単体】

(金額単位 億円)

	16年度予想		15年度実績
	中間期	年間	
営業収益	2,050	2,600	555
経常利益	2,000	2,550	512
当期純利益	2,000	2,550	505

(金額単位 億円)

配当金総額	16年度予想		15年度実績 年間
	中間	年間	
	—	522	464

1株当たり配当予想

(金額単位 円)

	16年度予想		15年度実績 年間
	中間	年間	
普通株式	-	4,000	3,000
第一種優先株式	-	10,500	10,500
第二種優先株式	-	28,500	28,500
第三種優先株式	-	13,700	13,700
第四種優先株式	(第1~12回)	135,000	135,000
	(第13回)	67,500	67,500

【連結】

(金額単位 億円)

	16年度予想		15年度実績
	中間期	年間	
経常収益	17,000	34,000	35,525
経常利益	2,700	6,500	3,428
当期純利益	1,500	3,300	3,304

<ご参考>

株式会社三井住友銀行

【単体】

(金額単位 億円)

	16年度予想		15年度実績
	中間期	年間	
業務粗利益	7,550	15,650	15,841
経費	2,950	5,850	5,840
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	4,600	9,800	10,001
経常利益	2,000	5,000	1,851
当期純利益	1,300	2,800	3,011

与信関係費用	2,500	4,500	8,034
--------	-------	-------	-------

(注)一般貸倒引当金繰入+臨時費用に含まれる不良債権処理額。